

有明工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	高齢者福祉論
科目基礎情報					
科目番号	3I003		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	創造工学科(情報システムコース)		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	前期:1	
教科書/教材	適宜プリントを配布する/参考文献については授業中に紹介する				
担当教員	藤原 ひとみ				
到達目標					
<p>1. 高齢社会の進展とその影響について理解し、今後の課題と対策について説明できる。</p> <p>2. 高齢期における身体状況や家庭状況の変化を理解し、高齢者の生活とニーズについて説明できる。</p> <p>3. 福祉分野における建築・情報・メカニクスの活用と、高齢者や障害者を含めた社会的弱者の生活を支える仕組みについて説明できる。</p>					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		高齢社会の進展とその影響について理解し、今後の課題と対策について年代や数値を用いて詳細に説明できる。	高齢社会の進展とその影響について理解し、今後の課題と対策について説明できる。	高齢社会の進展とその影響について理解できず、今後の課題と対策について説明できない。	
評価項目2		高齢期における身体状況や家庭状況の変化を理解し、高齢者の生活とニーズについて実例を挙げながら詳細に説明できる。	高齢期における身体状況や家庭状況の変化を理解し、高齢者の生活とニーズについて説明できる。	高齢期における身体状況や家庭状況の変化を理解できず、高齢者の生活とニーズについて説明できない。	
評価項目3		福祉分野における最先端技術の活用と、社会的弱者の生活を支える仕組みについて、詳細に説明できる。	福祉分野における最先端技術の活用と、社会的弱者の生活を支える仕組みについて説明できる。	福祉分野における最先端技術の活用と、社会的弱者の生活を支える仕組みについて説明できない。	
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B-1 学習・教育到達度目標 B-4					
教育方法等					
概要	<p>先進国の中でもトップレベルの高齢化率を誇る日本において高齢者福祉が重要であることは言うまでもない。高齢化の進展は今後も予測されており今後の社会においてはあらゆる分野において高齢者や障害者に対応した福祉的な視点の導入が重要となる。</p> <p>建築は勿論のこと、ITやメカニクスにおいても、福祉や医療分野への応用が期待されており、高齢者や障害者の生活を支援する仕組みとして、高齢者や障害者が生活しやすい居住環境、分かりやすい情報システム、介護ロボットに代表される福祉機器の開発などが進められている。これらを開発・整備するためには高齢者や障害者などの社会的弱者の現状や幅広い福祉分野の知識・理解が必要不可欠である。</p> <p>そこで本授業では、高齢者への基本的理解を深めると共に、高齢者や障害者の身体的特性を把握し、高齢者や障害者を含めた社会的弱者を取り巻く福祉的課題を総合的に学ぶことで、自身の専門分野を福祉分野に応用する素地を養う。本科目は、SDGsの目標11.住み続けられるまちづくりをに関連する。</p>				
授業の進め方・方法	板書・座学を中心に行うが、一部演習として、ワークショップや、体験キットを利用した社会的弱者体験を行い社会的弱者への理解を深める。ワークショップや社会的弱者体験はグループに分かれて行う。				
注意点	<p>高齢者を含めた社会的弱者を取り巻く施策や環境について身近なこととして捉え、主体的に講義に参加することを望む。社会的弱者の支援制度については様々なメディアを通じて最新の情報を入手すること。常に視野を広く持ち、社会的弱者の問題を自らの専門と関連付けて考察できるようになることを期待する。</p> <p>成績評価は試験70%（後期中間試験、後期末試験併せて）に加え、ワークショップや社会的弱者体験を行った際の成果物（レポート）などを30%で評価する。レポートの評価詳細に関しては第1回目の授業で説明する。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	高齢期の暮らし	高齢期をイメージし、様々な高齢者像があることを説明することができる。	
		2週	高齢社会の到来と社会の対応 1	高齢者社会の現状と影響について説明できる	
		3週	高齢社会の到来と社会の対応 2	高齢社会における課題とその対策について説明できる	
		4週	高齢者の生活とニーズ・老化と加齢	高齢者の健康状態と社会活動について説明できる	
		5週	社会的弱者の生活とニーズ 1	高齢者も含めた社会的弱者の見え方について配慮すべき事項を説明できる	
		6週	社会的弱者の生活を体験する 1・視覚	社会的弱者に対して配慮すべき身体能力や日常生活を例に説明できる。	
		7週	社会的弱者の生活とニーズ2	高齢者や、妊婦、子連れの人や車イスユーザーの生活について配慮すべき事項を説明できる。	
		8週	中間テスト		
	2ndQ	9週	社会的弱者の生活とニーズ3	視覚障害や聴覚障害のある人の生活について配慮すべき事項を説明できる。	
		10週	社会的弱者の生活を体験する 2・妊婦、高齢者	社会的弱者に対して配慮すべき事項を身体能力や日常生活を例に説明できる。	
		11週	社会的弱者の生活を体験する 3・車いす利用者	社会的弱者に対して配慮すべき事項を移動行動や日常生活を例に説明できる。	
		12週	社会的弱者の生活を支える仕組み 1	社会福祉の基本的な理念と福祉サービスについて説明できる。	
		13週	社会的弱者の生活を支える仕組み 2	社会的弱者が利用しやすいシステム、住まい、機器を計画する際に配慮すべき事項が説明できる。	

		14週	社会的弱者の生活を支える仕組み3	社会的弱者の生きがいづくりと社会参加の意義について説明できる
		15週	期末テスト	期末テスト
		16週	総括・これからの福祉	福祉の今後の動向と福祉分野における建築・情報・メカニクス活用の活用について説明できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	2	前1,前2,前3,前4,前7
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	前6,前9,前10
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	2	前3,前5,前6,前14
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	前1,前16
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3	前8,前9,前10,前11,前16

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	30	0	0	0	15	0	45
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	40	0	0	0	15	0	55